

天竜川洪水ハザードマップの解説

【想定最大規模】

天竜川の流域（降った雨が集まる範囲）全体に、48時間総雨量 526 mmの大雨が降って、天竜川が増水し堤防が決壊した場合に想定される浸水の範囲と深さを示したものです。
この規模の降雨発生確率は 1,000年に一度よりも低いと想定されています。

【計画規模】

天竜川の流域（降った雨が集まる範囲）全体に、48時間総雨量 322 mmの大雨が降って、天竜川が増水し堤防が決壊した場合に想定される浸水の範囲と深さを示したものです。
この規模の降雨発生確率は 150年に一度程度と想定されています。

天竜川の流域(降った雨が集まる範囲)はとても広い!!



天竜川と馬込川の流域比較図

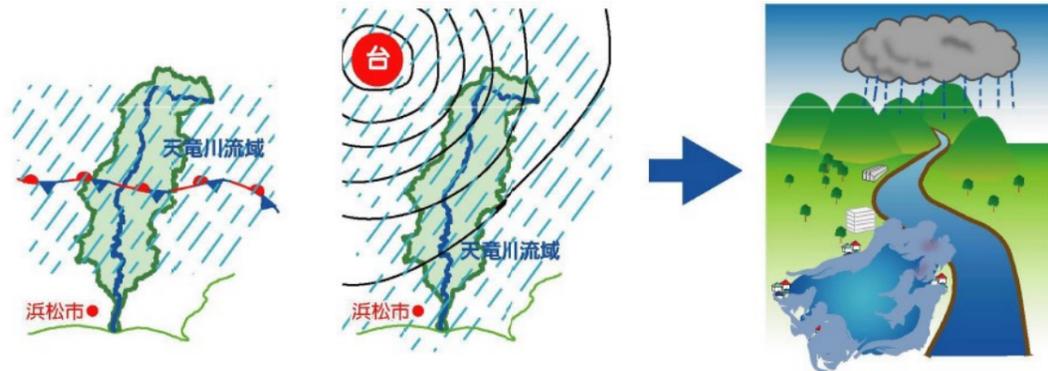
天竜川は市内の3河川よりはるかに大きい

天竜川と市内の3河川(安間川・馬込川・新川)の比較表

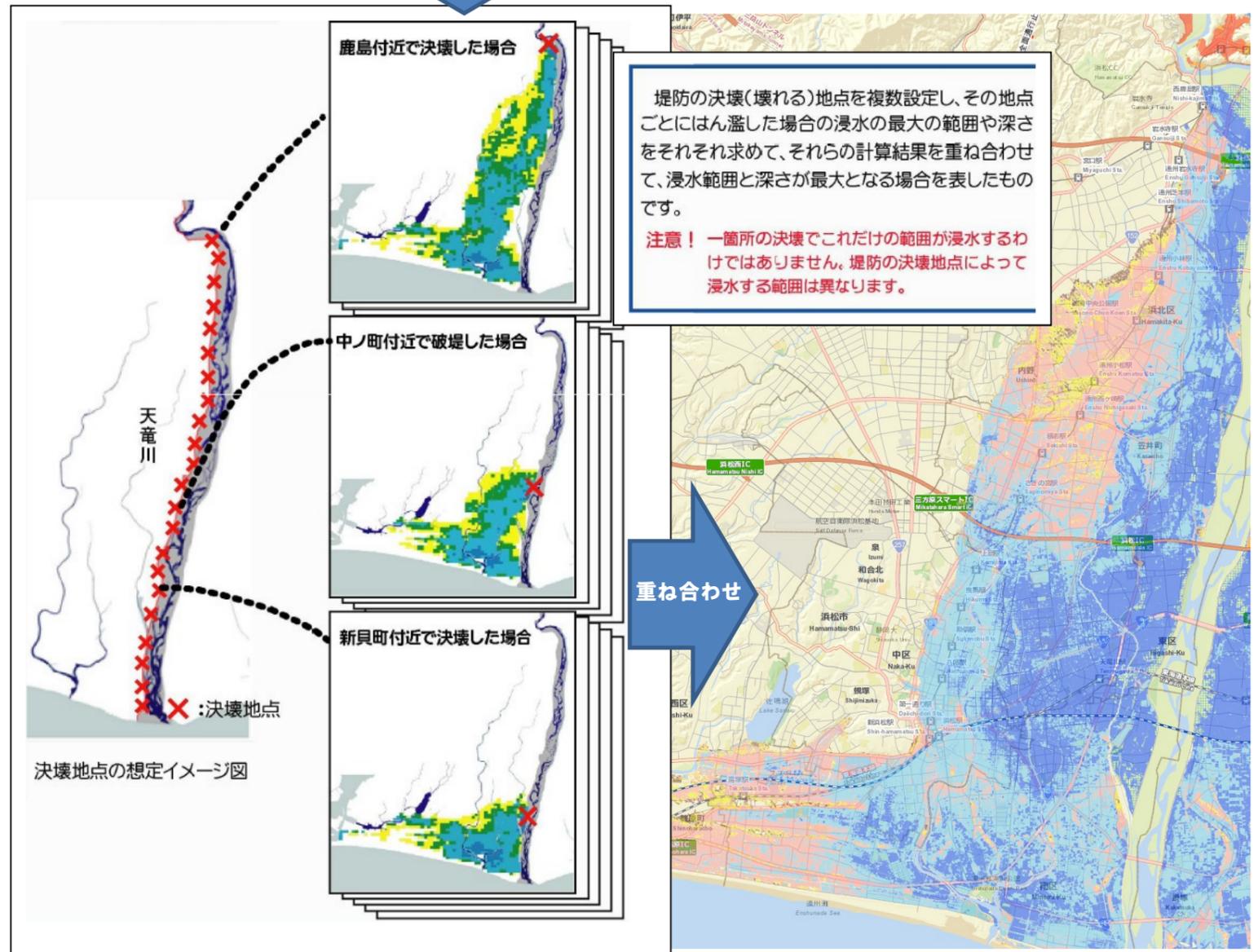
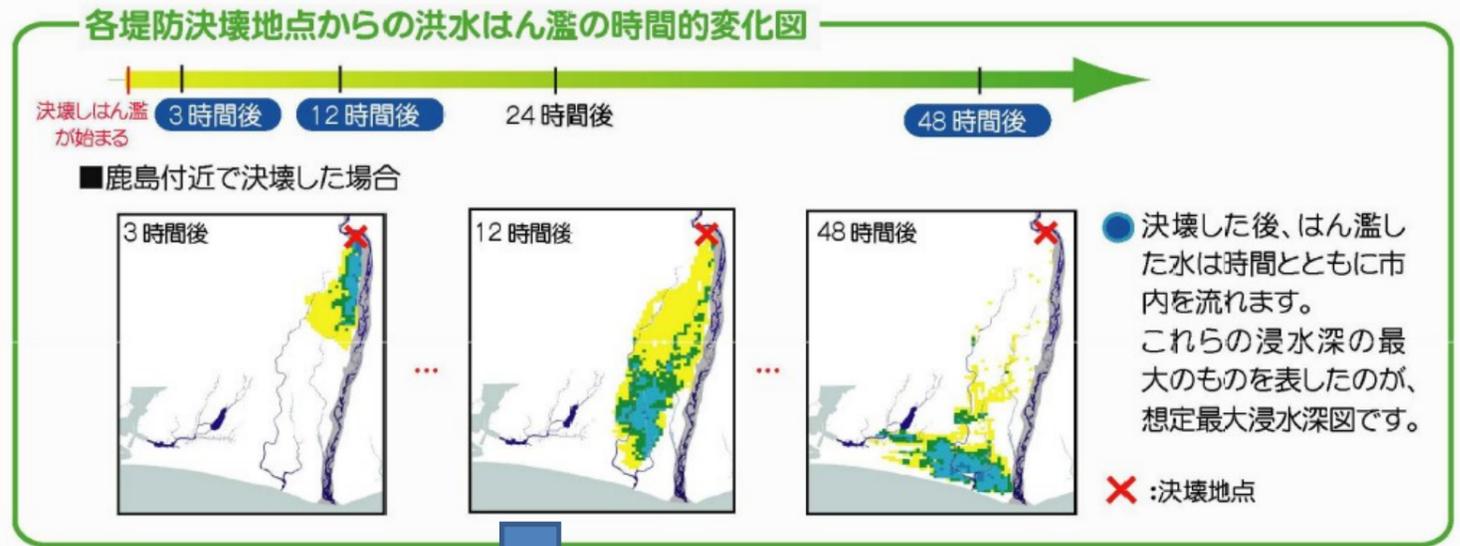
	天竜川	馬込川	新川	安間川
流路延長 (川の長さ)	213 km	23 km	14 km	11 km
流域面積 (川に流れ込む雨水を集める範囲)	5,096 km ²	96 km ²	57 km ²	21 km ²

天竜川は、馬込川と比べて、長さで約10倍、流域面積で約50倍も大きい川です。
天竜川では、広い流域全体に大雨が降らないと洪水にはなりません。つまり、市内の3河川(安間川、馬込川、新川)に比べ、天竜川は洪水は起きにくいのですが、一度洪水が起きれば、大きな流域に雨が降った分だけ洪水規模が大きくなります。

天竜川流域に、前線が停滞したり、大きな台風が上陸したりした場合など、大雨が流域全体に長時間降ることによって起こります。浜松市内に雨が降ってなくても、上流域の長野県で大雨が降れば、洪水となる可能性がありますので、注意が必要です。



停滞前線や台風による天竜川の洪水のようす



お住まいの地域の浸水状況は、堤防の決壊箇所ごとに異なります。最も深くなる時を一枚のハザードマップに表しています。